

石油輸入調査報告データ入力プログラム

オペレーションマニュアル

平成25年7月

目次

1	動作環境	1
2	インストール作業	1
2.1	インストールの手順	1
2.2	アンインストール手順	2
3	初期設定	2
3.1	環境設定	2
3.2	基本情報設定	2
4	操作方法	3
4.1	メイン画面	3
4.2	補助機能画面	5
4.3	環境設定画面	8
4.4	基本情報設定画面	10
4.5	調査票入力画面	12
4.6	マスタ参照画面について	15
4.7	エラーチェックについて	16
4.8	論理エラーチェックについて	18
4.9	入力規約	20

1 動作環境

石油輸入調査報告データ入力プログラムの動作には以下の環境が必要です。

- Microsoft Windows '95(OSR2.5)以上

2 インストール作業

プログラムが格納されたファイルを、石油情報報告に関する情報発信サイトよりダウンロードして、ハードディスクにインストールします。

2.1 インストールの手順

- ① 石油情報報告に関する情報発信サイトより新規インストール用のプログラム「setup 石油輸入調査入力.exe」をダウンロードします。
- ② ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。
- ③ インストールプログラムが起動します。画面に表示される説明にしたがって操作して下さい。

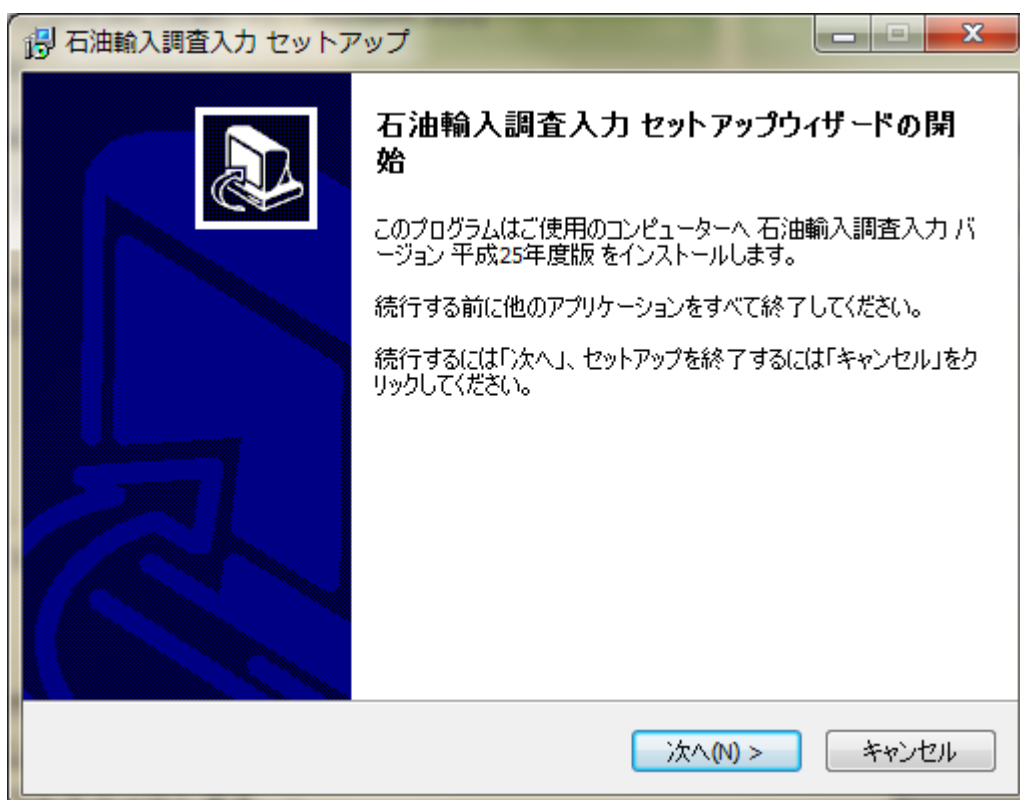


図 2.1 石油輸入調査インストールプログラム

- ④ 「新・石油輸入調査報告データ入力プログラム」がインストールされます。

2.2 アンインストール手順

PCにインストールされた「新・石油輸入調査報告データ入力プログラム」を削除し、導入前の状態に戻します。

「新・石油輸入調査報告データ入力プログラム」を終了します。

「スタート」ボタンから「すべてのプログラム」を開きます。

「報告データ入力プログラム」を選択し、「石油輸入調査入力」から「新・石油輸入調査報告データ入力プログラムをアンインストールする」をクリックします。

アンインストールプログラムが起動します。画面に表示される説明にしたがって操作して下さい。

3 初期設定

本プログラムを最初に起動した際には、初期設定を行う必要があります。次の2つの情報を設定してください。

3.1 環境設定

「環境設定」画面より入力してください。(4.3 環境設定画面参照)

3.2 基本情報設定

「基本情報設定」画面より入力してください。(4.4 基本情報設定画面参照)

初期設定を行わないと上記2つの機能以外は使用できません。

次回起動時からは、設定する必要はありません。ただし、コードマスタファイルの場所を移動した場合、又はフォルダ名の変更を行った場合には再度設定を行う必要があります。

4 操作方法

● 起動方法

スタートボタンより

すべてのプログラム ⇒ 報告データ入力プログラム ⇒ 石油輸入調査入力 ⇒ 新・石油輸入調査報告データ入力プログラム を選択してください。

プログラムが起動し、メイン画面が表示されます。

4.1 メイン画面

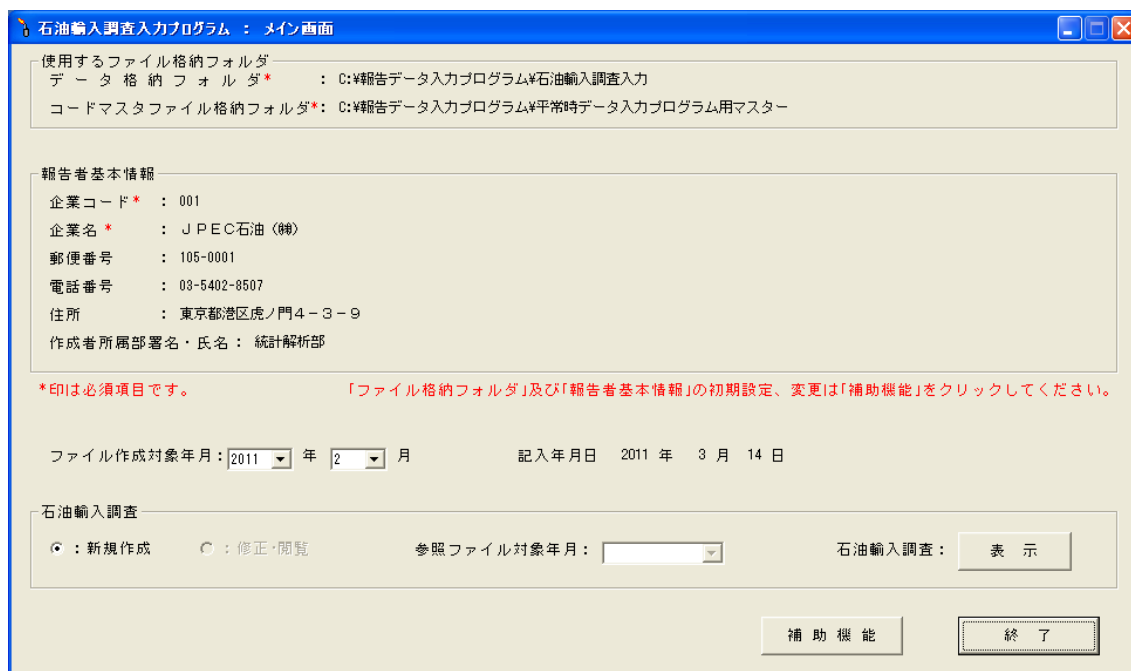


図 4.1 メイン画面（初期設定後の画面です）

① 「使用するファイル格納フォルダ」

データ格納フォルダ、コードマスタファイル格納フォルダの格納場所を表示します。

(4.3 環境設定画面参照)

② 「報告者基本情報」

設定されている報告者の基本情報を表示します。

(4.4 基本情報設定画面参照)

③ 「ファイル作成年月日」

何年何月分の報告ファイルを作成するか設定します。

規定値として当日の日付の前月が表示されます。

④ 「記入年月日」

ファイルを作成する年月日を表示します。(現在の日付)

⑤ 「石油輸入調査」

(1) 「新規作成」「修正・閲覧」

新しく報告ファイルを作成する場合は「新規作成」にチェックを入れます。既存の報告ファイルを基に作成する場合は「修正・閲覧」にチェックを入れます。

(2) 参照ファイル対象年月

(1)で「修正・閲覧」を選択した場合、何年何月分の報告ファイルを参照するかを指定します。

(3) 「表示」ボタン

(1)で「新規作成」を選択している場合は、入力項目が全て空白の状態です。「調査票入力」画面を表示します。

(1)で「修正・閲覧」を選択している場合は(2)で指定した報告ファイルの内容を「調査票入力」画面に表示します。

⑥ 「補助機能」ボタン

クリックすると「補助機能」画面を表示します。

⑦ 「終了」ボタン

クリックすると「石油輸入調査報告データ入力プログラム」を終了します。

4.2 補助機能画面

「メイン」画面の「補助機能」ボタンをクリックすると「補助機能」画面が表示されます。

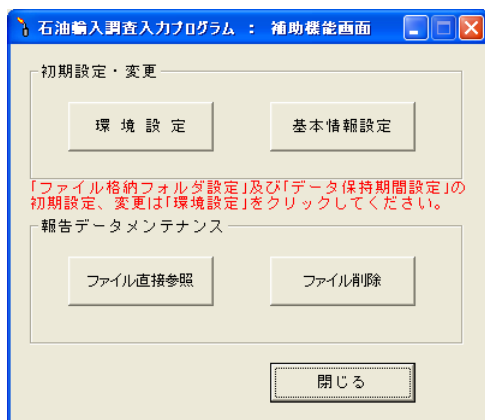


図 4.2.1 補助機能画面

① 「環境設定」ボタン

クリックすると「環境設定」画面を表示します。

② 「基本情報設定」ボタン

クリックすると「基本情報設定」画面を表示します。

③ 「ファイル直接参照」ボタン

ファイル名から調査ファイルを直接参照・編集する機能です。

- (1) 「ファイル直接参照」ボタンをクリックすると、「ファイルを開く」画面が表示されます。(環境設定でデータ格納フォルダに指定したフォルダ内のファイルが表示されます。)

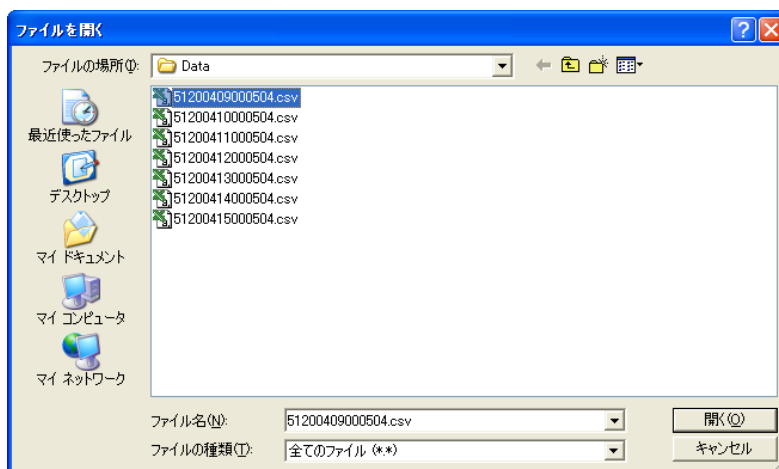


図 4.2.2 ファイルを開く画面

- (2) 参照したいファイルを選択して「開く」ボタンをクリックして下さい。
- (3) 選択したファイルの内容が「報告ファイル(石油輸入調査)」であれば「調査票入力」画面にファイルの内容が表示されます。(一致しない場合は、メッセージを表示し補助機能画面に戻ります。)
- (4) 調査票の入力方法は「4.5 調査票入力」を参照してください。ただしファイルの保存方法が異なります。ファイルを保存する場合は「調査票入力」画面左上の「ファイル保存」をクリックしてください。
「ファイルを名前を付けて保存」画面が表示されます。保存するファイル名を入力し「保存」ボタン押して下さい。

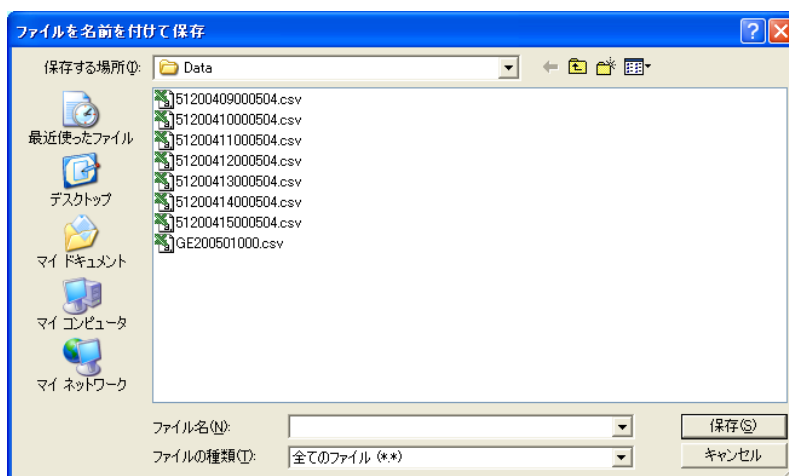


図 4.2.3 ファイルを名前を付けて保存画面

④ 「ファイル削除」ボタン

過去に作成した調査票ファイルを削除する機能です。削除せずに保持しておく期間は「環境設定」画面の「データ保持期間」で設定します。

- (1) 「ファイル削除」ボタンをクリックします。
- (2) メッセージボックスに「yyyy年mm月(nnヶ月)以前の報告データを削除します。」と表示されます。

例：システム日付が2005年4月でデータ保持期間が12ヶ月の場合

2004年3月までのデータは保持し2004年2月以前のデータを削除します。

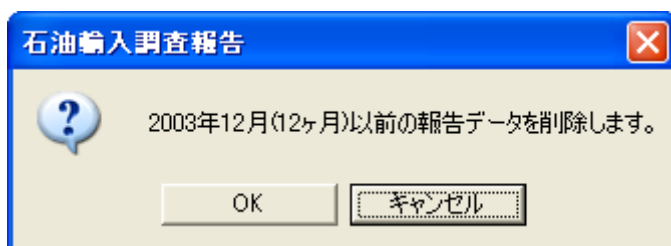


図 4.2.4 ファイル削除確認メッセージ

- (3) 「OK」をクリックすると示された期間のファイルが削除されます。「いいえ」をクリックすると処理を終了し「補助機能」画面に戻ります。

⑤ 「終了」ボタン

クリックすると「補助機能」画面を終了し、「メイン」画面を表示します。

4.3 環境設定画面

「補助機能」画面の「環境設定」ボタンをクリックすると「環境設定」画面が表示されます。

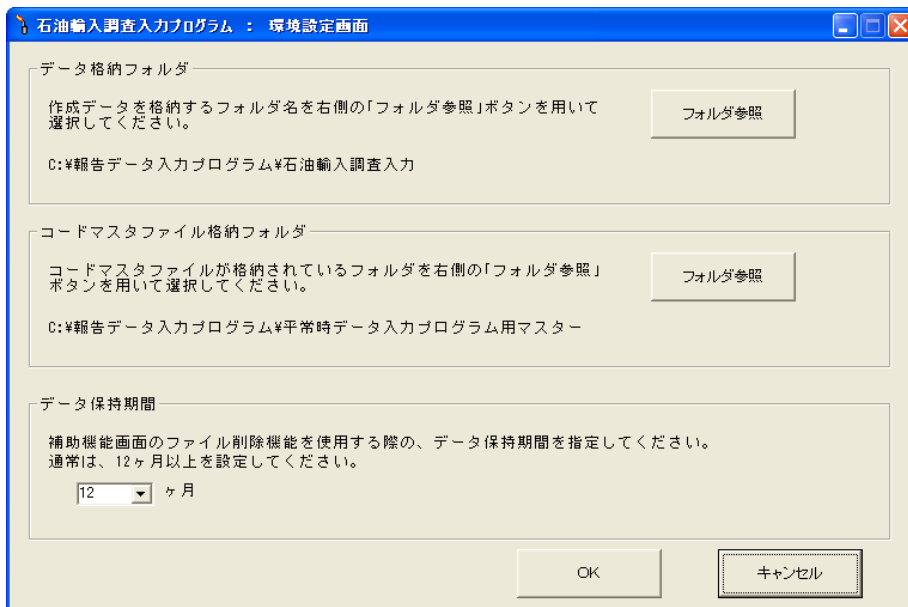


図 4.3.1 環境設定画面

① データ格納フォルダ

データ格納フォルダとは経済産業省へ送信する報告データファイルを作成した際にそのファイルが保存されるフォルダのことです。

(1) 「フォルダ参照」ボタンをクリックすると「フォルダの参照」画面が表示されます。

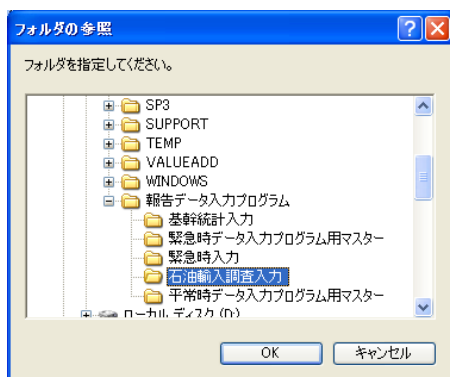


図 4.3.2 フォルダの参照画面

(2) 「フォルダの参照」画面で報告データファイルを保存したいフォルダを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。「環境設定」画面のデータ格納フォルダに、選択したフォルダのフルパスが表示されます。

② コードマスタファイル格納フォルダ

「コードマスタファイル」とは次の9つのファイルを指します。

コードマスタファイルは石油情報報告に関する情報発信サイトよりダウンロードしてください。

- タンカー.csv
- 企業.csv
- 企業事業所.csv
- 供給者.csv
- 契約期間.csv
- 原油油種.csv
- 国地域.csv
- 積出港.csv
- 用船区分.csv

(1) 「フォルダ参照」ボタンをクリックすると「フォルダの参照」画面が表示されます。

(2) 「フォルダの参照」画面で報告データファイルを保存したいフォルダを選択し、「OK」ボタンを押してください。「環境設定」画面の「コードマスタファイル格納フォルダ」に、選択したフォルダのフルパスが表示されます。

③ データ保持期間

「データ保持期間」とは「ファイル削除」機能を使用した際に削除せずに保持しておく期間です。初期設定は12ヶ月です。

(1) 「データ保持期間」の▼をクリックし表示される期間から選択してください。直接数値を入力することも可能です。

④ 「OK」ボタン

(1) 画面に入力した内容を設定に反映させる場合は「OK」ボタンをクリックしてください。

入力内容のチェックを行った後、設定ファイルに反映されます。入力内容に不都合が存在する場合は、メッセージが表示されます。メッセージにしたがって再度設定を行ってください。

⑤ 「キャンセル」ボタン

(1) 入力内容を反映せずに終了する場合は「キャンセル」ボタンをクリックしてください。「環境設定」画面を終了し「補助機能」画面に戻ります。

4.4 基本情報設定画面

入力するデータの情報およびユーザ個別の情報を設定します。ここで設定した情報を基に、プログラムは送信用ファイルのファイル名を自動的に付けるため、間違いのないように設定してください。

「補助機能」画面の「基本情報設定」ボタンをクリックすると「基本情報設定」画面が表示されます。

図 4.4.1 基本情報設定画面

① 企業コード（入力必須）

(1) 直接入力

3桁の「企業コード」を入力します。対応する「企業名」が自動的に入力されます。

(2) 一覧から入力する。

「企業名参照」ボタンを押すと「企業マスタ参照」画面が表示されます。

リストから企業名を選択し、「OK」を押してください。「基本情報設定」画面に企業コード、企業名が設定されます。

② 企業名（入力必須）

企業名は企業コードを入力すると自動的に入力されます。変更する必要がある場合は、入力してください。（最大50文字）

③ 郵便番号

本社所在地の郵便番号を入力します。(最大8文字)

④ 住所

本社所在地の住所を入力します。(最大40文字)

⑤ 電話番号

本社の電話番号を入力します。(最大15文字)

⑥ 作成者所属部署名・氏名

作成者の所属する部署名、作成者の氏名を入力します。(最大40文字)

⑦ 「OK」ボタン

- (1) 画面に入力した内容を設定に反映させる場合は「OK」ボタンを押してください。
入力内容のチェックを行った後、設定ファイルに反映されます。入力内容に不都合が存在する場合は、メッセージが表示されます。メッセージにしたがって再度設定を行ってください。

⑧ 「キャンセル」ボタン

- (1) 入力内容を反映せずに終了する場合は「キャンセル」ボタンを押してください。
「基本情報設定」画面を終了し「補助機能」画面に戻ります。

④ 「送信形式保存」 ボタン

「送信形式保存」をクリックすると、入力データのエラーチェック、論値エラーチェックを行った後、経済産業省に送信する送信用ファイルを作成して保存します。保存先は、環境設定画面の「データ格納フォルダ」で指定したフォルダとなります。このときに行われるエラーチェックについては「4.7 エラーチェックについて」をご覧ください。エラーチェックでエラーが発見された場合、メッセージが表示され、送信用ファイルは作成されません。エラーを修正した後、再度「送信形式保存」をクリックしてください。

論理エラーチェックでワーニングが発見された場合、メッセージが表示され、対象となるセルの背景色が黄色になります。メッセージの内容を確認し、そのまま保存しても構わない場合は「はい」を、データを修正する場合は「いいえ」をクリックしてください。論理エラーチェックについては「4.8 論理エラーチェックについて」をご覧ください。

次の送信用ファイルが作成されます。

(1) 石油輸入調査報告ファイル

石油輸入調査の情報が格納される、CSV 形式のファイルです。

ファイル名は次の規則で自動的に付与されます。

ファイル名：GEyyyyymmKKK.csv

(yyyy：報告年月の西暦年、mm：報告年月の月、KKK：企業コード)

⑤ 「調査票プレビュー」 ボタン

「調査票プレビュー」をクリックすると、入力データのエラーチェック、論値エラーチェックを行った後、調査票と同様のイメージのプレビュー画面を表示します。

1 ページに表示される行数は 20 行です。これらの行数を超える場合は 2 枚目以降に表示されます。

この機能を利用するには、プリンタの設定を予め行う必要があります。

⑥ 「調査票形式印刷」ボタン

「調査票形式印刷」をクリックすると、入力データのエラーチェック、論値エラーチェックを行った後、調査票と同様のイメージで印刷します。

1 ページに印刷される行数は20行です。これらの行数を超える場合は2枚目以降に印刷されます。

この機能を利用するには、プリンタの設定を予め行う必要があります。

⑦ 「終了」ボタン

クリックすると調査票入力画面の処理を終了し、メイン画面に戻ります。

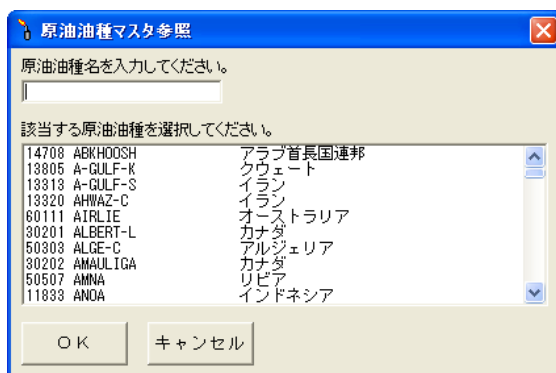
4.6 マスタ参照画面について

各マスタ参照画面は「〇〇を入力してください」の欄に名称の先頭文字を入力すると先頭からの文字列が一致する名称がリストに表示されます。

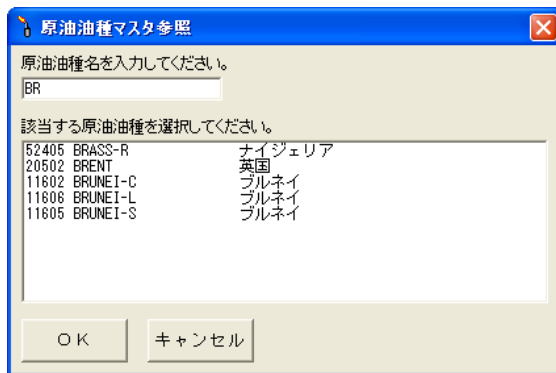
リストから名称を選択し「OK」ボタンをクリックすると呼び出し元の画面の対応する項目にコードがセットされます。

例：「調査票入力」画面で「BRENT」の油種名コードを参照入力する場合

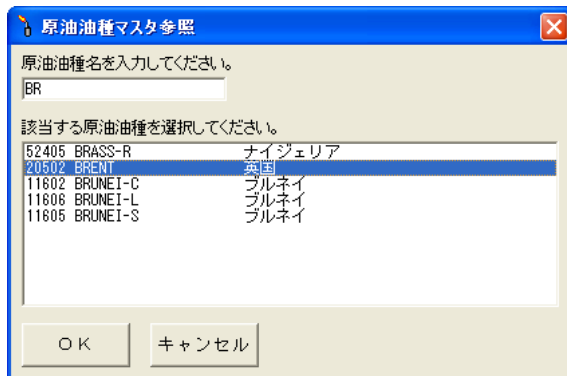
(1) 原油油種マスタ参照画面を表示する。



(2) 「原油油種名を入力してください。」の欄に「BR」と入力すると、一覧に名称が「BR」で始まる油種名とそのコードが表示される。



(3) 「BRENT」を選択し「OK」ボタンを押す。



4.7 エラーチェックについて

エラーチェックの内容は以下の 21 パターンです。

これらのチェックでエラーが発見された場合は、メッセージが出力され該当する項目の背景色が赤色で表示されます。

- ① 検尺完了日
西暦年・月・日の形式で、存在する日付であること。
検尺完了日の年月は、ファイル作成対象年月と同一であること。
- ② 陸揚地
企業コード、事業所コードがそれぞれのマスタに存在すること。
- ③ 検尺数量
範囲が 1~99,999,999 の半角数値であること。
- ④ 油種名コード
原油油種名マスタに存在すること。
- ⑤ API 度
範囲が 0.01~99.99 の半角数値及び"."であること。(少数以下第 2 位まで必須)
- ⑥ 硫黄分
範囲が 0.001~9.999 の半角数値及び"."であること。(少数以下第 3 位まで必須)
- ⑦ 船積完了日
西暦年・月・日の形式で、存在する日付であること。
- ⑧ 積出港コード
積出港マスタに存在すること。
- ⑨ 船舶名称コード
タンカーマスタに存在すること。
タンカーマスタに存在しない場合、1 桁目は、J、F、C のいずれかであり、2~4 桁は、001~999 の半角数値であること。
- ⑩ 用船区分コード
用船区分マスタに存在すること。

- ⑪ 送主(Shipper)コード
供給者マスタに存在すること。
- ⑫ 原供給者(Original Shipper)コード
供給者マスタに存在すること。
- ⑬ 契約期間コード
契約期間マスタに存在すること。
- ⑭ 船積数量
範囲が 1~999,999,999 の半角数値であること。
- ⑮ F O B
範囲が 0.001~999.999 の半角数値及び"."であること。(少数以下第 3 位まで必須)
- ⑯ 運賃総額
範囲が 1~9,999,999 の半角数値であること。
- ⑰ 保険料総額
範囲が 0.1~99,999.9 の半角数値及び"."であること。(少数以下第 1 位まで必須)
- ⑱ C I F 総額
範囲が 1~99,999,999 の半角数値であること。
- ⑲ 基準運賃
範囲が 0.01~999.99 の半角数値及び"."であること。(少数以下第 2 位まで必須)
- ⑳ 検尺完了日、船積完了日
検尺完了日 > 船積完了日の関係が成り立つこと。
- ㉑ 行単位必須チェック
「検尺完了日」、「陸揚地」、「検尺数量」、「油種名」、「船積完了日」、「積出港」、
「用船区分」、「送主」、「原供給者」、「契約期間」、「船積数量」、「FOB」、「運賃総額」、
「CIF 総額」、「基準運賃」は全て入力されていること。

4.8 論理エラーチェックについて

論理エラーチェックの内容は以下の 11 パターンです。

これらのチェックでエラーが発見された場合は、メッセージが出力され該当する項目の背景色が

黄色で表示されます。

① 原供給者コード

1桁目は、1～5の範囲であること。

② 船積数量

範囲が、60～2,000,000 であること。

③ FOB

範囲が、8.000～50.000 であること。

④ 油種名コード、積出港コード

それぞれの先頭3桁が同一であること。

⑤ 検尺数量、船積数量

次の式が成り立つこと。

$$0.97 \leq \text{船積数量(Barrel)} \div (\text{検尺数量(kl)} \times 6.29) \leq 1.03$$

⑥ CIF総額、FOB+運賃総額+保険料総額

次の式が成り立つこと。

$$0.97 \leq \text{CIF総額} \div (\text{FOB} \div 1000 \times \text{船積数量} + \text{運賃総額} + \text{保険料総額}) \leq 1.03$$

⑦ 原供給者コード、積出港コード

原供給者コードの先頭1桁が"4"(産油国政府及び国営会社)のとき、油種名コード、積出港コードの先頭3桁が同一であること。

⑧ 東南アジア、中国等(積出港コード先頭3桁が119以下の時)からの航海日数

次の式が成り立つこと。

$$3 \text{ 日} \leq \text{検尺完了日} - \text{船積完了日} \leq 20 \text{ 日}$$

- ⑨ 中東、中南米、アフリカ等(積出港コード先頭3桁が120以上の時)からの航海日数
次の式が成り立つこと。

$$15日 \leq \text{検尺完了日} - \text{船積完了日} \leq 60日$$

- ⑩ API度

未入力でないこと。

範囲が、18.00～85.00 であること

- ⑪ 硫黄分

未入力でないこと。

範囲が、0.010～5.000 であること。

4.9 入力規約

表に値を入力する方法、編集する方法、削除する方法を説明します。

用語説明

- 表のカーソル

検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種
年月日	企業コード	事業所コード	kl	コー

このセルを囲んでいる四角のことを指します。

- セルが編集状態

セルの中で縦棒状、又は▲のカーソルが点滅している状態を指しています。

セルをマウスの左ボタンでダブルクリックするとこの状態になります。

バーレル	\$/B	1
7,670	8,000	

バーレル	\$/B	1
7,670	8,000▲	

値の入力方法

入力位置を指定する。

データを入力したい位置に表のカーソルを移動してください。表のカーソルはキーボードの方向キー（↑、↓、←、→）で移動するか、セルをマウスの左ボタンでクリックし移動します。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	k l	コード	60° F	Wt%	年月日	コ
001	2005/01/24	876	001					2004/12/15	601

値を入力する。

キーボードより値を入力して下さい。入力した値が指定したセルに表示されます。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	k l	コード	60° F	Wt%	年月日	コ
001	2005/01/24	876	001	300				2004/12/15	601

入力値を決定する。

入力した値を表に反映するには「Enter」キーを押してください。このとき表のカーソルは次の入力個所に移動します。

(このとき画面上に反映されるだけで送信形式ファイルには反映されません)

入力した値を表に反映させない場合は「Esc」キーを押してください。値を入力する前の状態に戻ります。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	k l	コード	60° F	Wt%	年月日	コ
001	2005/01/24	876	001	300				2004/12/15	601

入力された値を修正する

入力位置を指定する。

データを入力したい位置に表のカーソルを移動してください。表のカーソルはキーボードの方向キー（↑、↓、←、→）で移動するか、セルをマウスの左ボタンでクリックし移動します。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	k l	コード	60° F	Wt%	年月日	コ
001	2005/01/24	876	001	300	14708	12.40	2.000	2004/12/15	601

値を修正する。

キーボードより値を入力します。以前の数値は上書きされ、入力した値が指定したセルに表示されます。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	k l	コード	60° F	Wt%	年月日	コ
001	2005/01/24	876	001	300	14708	12.40	3.500	2004/12/15	601

入力値を決定する。

入力した値を表に反映するには「Enter」キーを押してください。このとき表のカーソルは次の入力個所に移動します。

(このとき画面上に反映されるだけで送信形式ファイルには反映されません)

入力した値を表に反映させない場合は「Esc」キーを押してください。値を入力する前の状態に戻ります。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	k l	コード	60° F	Wt%	年月日	コ
001	2005/01/24	876	001	300	14708	12.40	3.500	2004/12/15	601

入力された値の一部を修正する。

入力位置を指定する。

編集したいセルをマウスの左ボタンでダブルクリックします。セルが編集状態になります。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	kl	コード	60°F	Wt%	年月日	コード
001	2005/01/24	876	001	300	14708	11.00	2.000	2004/12/15	601

値を修正する。

キーボードより値を修正します。

この時「Delete」キーを押すとセル内の値が全て削除されてしまいます。1文字ずつ削除するには「BackSpace」キーを使用して下さい。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	kl	コード	60°F	Wt%	年月日	コード
001	2005/01/24	876	001	300	14708	12.40	2.000	2004/12/15	601

入力値を決定する。

入力した値を表に反映するには「Enter」キーを押してください。このとき表のカーソルは次の入力個所に移動します。

(このとき画面上に反映されるだけで送信形式ファイルには反映されません)

入力した値を表に反映させない場合は「Esc」キーを押してください。値を入力する前の状態に戻ります。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	kl	コード	60°F	Wt%	年月日	コード
001	2005/01/24	876	001	300	14708	12.40	2.000	2004/12/15	601

入力された値を削除する。

削除位置を指定する

データを削除したい位置に表のカーソルを移動してください。表のカーソルはキーボードの方向キー（↑、↓、←、→）で移動するか、セルをマウスの左ボタンでクリックし移動します。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	k l	コード	60° F	Wt%	年月日	コ
001	2005/01/24	876	001	300	14708	12.40	3.500	2004/12/15	601

値を削除する

「Delete」キーを押します。

	検尺完了日	陸揚地		検尺数量	油種名	API度	硫黄分	船積完了日	積出
	年月日	企業コード	事業所コード	k l	コード	60° F	Wt%	年月日	コ
001	2005/01/24	876	001		14708	12.40	3.500	2004/12/15	601